

## 後援・推薦に係る審査結果報告書

No.	申請日	申請者	事業名	会場・開催日時	事業の目的・対象・内容等	入場料	新規 継続	承認区分 及び決定日	審査結果
1	H29. 10. 10	名古屋芸術大学 アートマネジメントコース山田 純	MAX鷹野のシンフォニックコンサート	開催日時： H29. 11. 18 (土) 開催場所：長久手市文化の家 光のホール	○目的：大学の卒業制作を目的としている。  ○対象：午前は親子、午後は大人  ○内容：エレクトーンの魅力を伝えるコンサート。大学の卒業制作として実施する。	午前の部：大人1,800円、小人500円、親子ペア1,800円 午後の部：2,000円	新規	H29.10.20	※平成29年10月20日意見交換済。 演奏を通して、地域の文化芸術活動の普及発展に寄与しているため、後援することが適当である。
2	H29. 9. 22	「次世代の“いのち・くらし・エネルギー”を考える会」 池住 義憲	公開講演会「ドイツはどのようにして脱原発に舵を切ったか～～ドイツ脱原発倫理委員会報告とその後…」(仮題)	開催日時： H30. 2. 11 (日) 14：00～16：30 開催場所：日進市民会館大ホール	○目的：日本の原発政策および原発再稼働問題を福島の現状をふまえつつ、考えることを目的としている。  ○対象：日進市、長久手市ほか周辺自治体の市民  ○内容：ドイツ脱原発倫理委員会の中心的メンバーであるミランダ・シュラーズ教授による、脱原発に舵を切ったドイツの動きについての講演を行う。	500円	継続 2年目	H29.9.28	前年度後援実績があり、福島第一原発事故を振り返り次世代の子どもたちのことを考えることを目的としているため、後援することが適当である。
3	H29. 9. 1	特定非営利活動法人スクスクスクール理事長佐野悟	第42回スクスクスクール 冬休み＆春休み自然体験教室	開催日時： H29. 12. 2 (土) ～ H30. 4. 21(土) 開催場所：岐阜県高山市荘川町、長野県北安曇郡白馬村、三重県志摩市他	○目的：自然とふれあうことで自然への理解を深め、仲間と助け合うことで自主性や協調性等を育むことを目的としている。  ○対象：愛知県内の小中学生  ○内容：「大自然の中でのびのびとあそびながら学び、学びながら遊ぶ」という基本方針のもとにスキー、スノーボードの技術習得、雪山等での自然体験ができる教室の実施をする、	32,800円～ 46,900円	継続 2年目	H29.10.5	前年度後援実績があり、大自然の中での体験学習を通して、自然への理解を深め、仲間と助け合うことで自主性や協調性等を育むことを目的とするため、後援することが適当である。

資料2

No.	申請日	申請者	事業名	会場・開催日時	事業の目的・対象・内容等	入場料	新規 継続	承認区分 及び決定日	審査結果
4	H29. 9. 29	一般財団法人林美術財団 名都美術館 館長 石丸 正運	〈特別展〉名都美術館開館30周年記念 志村ふくみ展 一いのちの色に導かれ—	開催日時： H30. 1. 12（金）～ H30. 3. 18（日） 開催場所：名都美術館	○目的：文化発展に寄与することを目的としている。  ○対象：長久手市民をはじめとする市民  ○内容：名都美術館30周年を記念する特別展として、2015年に文化勲章を受章した志村ふくみの軌跡を、滋賀県立近代美術館の所蔵品により振り返る。青田五朗に師事した母に指導を仰ぎ、染織の道へ進んだ志村が60年以上をかけて制作してきた紬織の着物や屏風、裂帖などを展示。植物染料の美しさに魅了され、奥深い色を引き出すために心血を注ぐ志村の姿を紹介する。	一般1,000円	継続 3年目	H29.10.11	前年度後援実績があり、市民の文化発展に寄与する催し物であるため、後援することが適当である。
5	H29. 10. 10	特定非営利活動法人アルクス教育研究所代表理事 田中正利	ウインターフィールド2018～協同生活から冬の自然体験・ウインターポーツ～	開催日時： H29. 12. 24（日）～ H30. 2. 18（日） 開催場所：福井県大野市六呂師地区周辺	○目的：冬の期間またはそこでしか味わえない自然環境で様々なことを体験し、青少年の心身の健全育成を図ることや自然環境の大切さ、すばらしさを学ぶことを目的としている。  ○対象：関西・東海・北陸地方の小学校1年生から中学校3年生までのべ220人  ○内容：スキー・スノーボードや雪遊び体験等六呂師地区的自然豊かな環境等を利用して様々な自然体験や協動作業を行う。	12,800円～ 27,500円	継続 3年目	H29.10.12	前年度後援実績があり、様々な子どもたちが自然体験を通して心と身体を養い、仲間と共に学び合い、分かち合いながら生きる力を育むことを目的とした催し物であるため、後援することが適当である。